

情報元：南海日日新聞社
日付：令和4年2月23日

【沖永良部総務局】沖永良部島出身者の郷友会「沖洲会」ガイダンスが21日、県立沖永良部高校（室屋洋一校長）であった。今春卒業を控えた3年生69人を対象に、同校OBで知名町役場職員吉田雄輝さん（24）

「若者の輪広げ、えらぶの和に」

沖高で沖洲会ガイダンス



沖洲会ガイダンスで、講話を聞く沖永良部高の3年生
21日、同校体育館

人の参加者が少なく、コミニティー機能の低下などが課題と説明した。

吉田さんは「これから皆さんが島を離れ、新しい環境で過ごす中、辛いと感じる時がある。一人で乗

り越えられない時は仲間を頼ろう。横のつながりを大切に、ぜひ沖洲会の先輩ら縦のつながりも大事にしてほしい。若者の輪を広げ、えらぶの和にしていこう」などと呼び掛けた。

お礼のあいさつで同校3年の西山千愛さん（18）は「私たちはこれから別々の道に進んでいくが、島外で

も情報交換し合い、支え合いながら自分たちの夢に向かって頑張りたい。沖洲会の活動にも積極的に参加したい」と語った。

ガイダンスの後半は沖永良部島出身の歌手、大山百合香さんが登場し、サフライスライブで卒業を控えた3年生にエールを送った。

が、自身の体験を基に沖洲会の意義や魅力を語り、活動への積極的な参加を促した。

ガイダンスは古里の後輩支援と、会活動への参加促進が目的。全国沖洲会事務局（和泊、知名両町）の主

催で、沖永良部高の3年生を対象に毎年実施している。

吉田さんは沖洲会について、「島外で暮らす人たちがえらぶのために立ち上げた歴史のある、古里を思う団体」と紹介。一方で若い